

会津の中世
関連講演会

「会津の城」

講師：飯村 均 氏
(元福島県文化振興財団)

令和5年11月25日(土) 13:30～15:00
福島県文化財センター白河館 講堂

会津の城

飯村 均

- 1 はじめに 「城≡城館」とは
- 2 会津坂下町陣が峯城跡 『藍津之城』
- 3 喜多方市会津新宮城跡 応永二十七年落城の方形居館
- 4 三島町元屋敷遺跡 奥会津・山ノ内氏の居館
- 5 会津美里町向羽黒山城跡 蘆名盛氏の本拠
- 6 北塩原村柏木城跡 蘆名氏の境目の城
- 7 おわりに 城郭史の中の会津の城

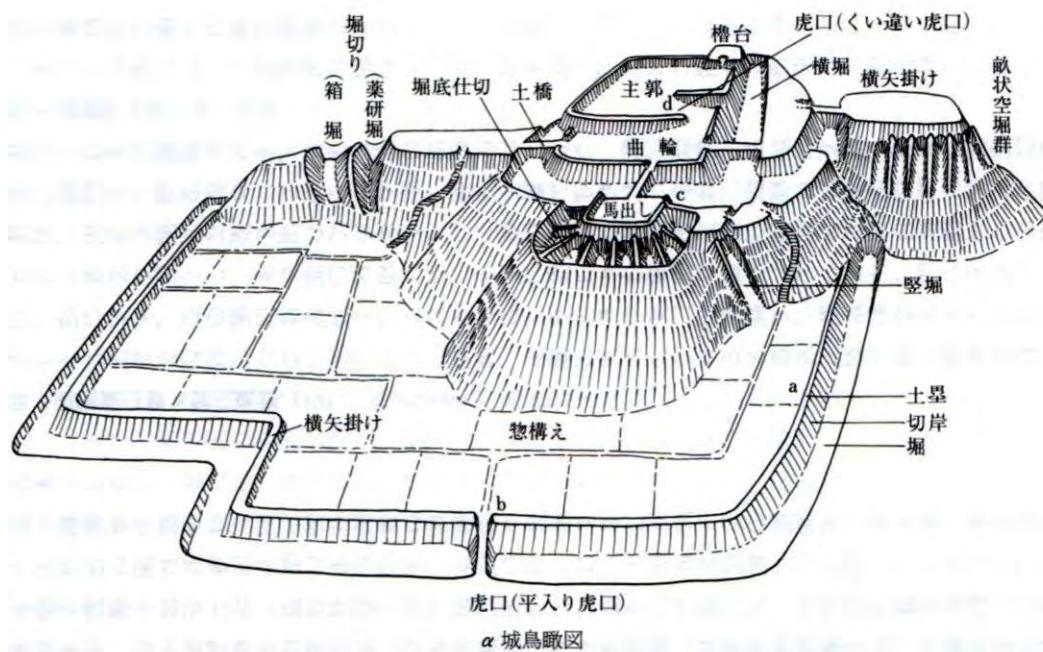


図1 城鳥瞰図 (千田他 1993)

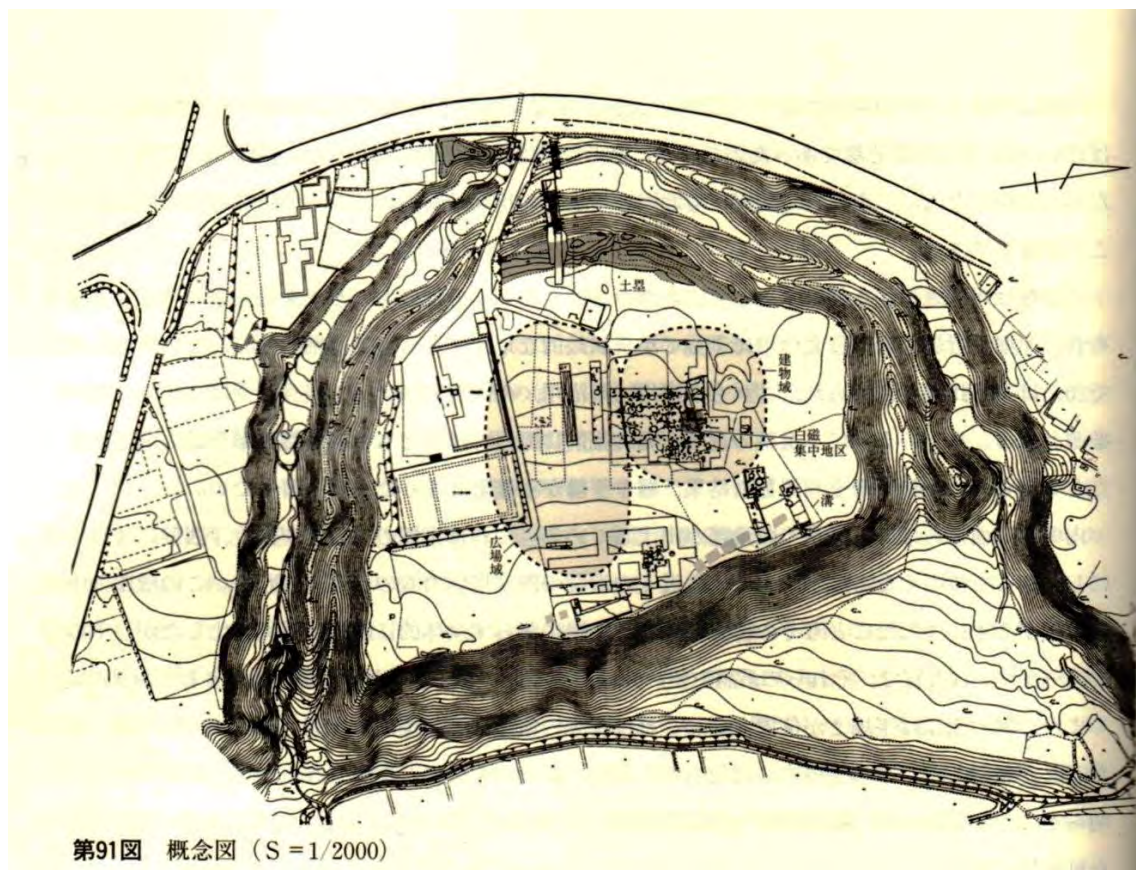


図2 陣が峯城跡概念図 (吉田他 2005)

□1157 保元2		□1158
・このころ藤原基衡死去。		・8 後白河院政開始
		□1159
		・12 平治の乱
		□1167
		・2 平清盛、太政大臣に就任。
□1170 嘉応2		
・藤原秀衡、鎮守府將軍に就任。 [玉葉など]		□1177
□1175 安元1		・5 鹿ヶ谷事件
・このころ源義経、藤原秀衡の保護を受ける。		□1180
	□1180 治承4	・4 源頼政・以仁王、挙兵。
	・9 信濃の小笠原頼直、木曾義仲に追われ、城長茂を頼り越後に赴く。[鏡]	・8 源頼朝、伊豆で挙兵。[鏡]
	・12 城助永、義仲追悼宣旨を申請か。[玉葉]	・9 木曾義仲、信濃で挙兵。[鏡]
	□1181 養和1	□1181
□1181 養和1	・1 城助永に源氏追討宣旨下るか。[延慶本平家]	・② 平清盛、死去。
・8 藤原秀衡、陸奥守に就任。 [玉葉など]	・春 城助永死去。	
	・6 城助職、信濃国横田河原で義仲軍と合戦し、敗北。会津恵日寺の乗湛房、平新大夫らも加わる。その後、助職は「藍津之城」に引き籠もり、藤原秀衡の遣わした郎従に追われ、「本城」に籠もるといふ。[玉葉、延慶本平家]	
	・8 城助職、越後守に就任。 [玉葉など]	
	□1182 寿永1	
	・9 城長茂（助職）、「越後国小河庄赤谷」に城郭を構え、妙見菩薩を崇め、源氏を呪詛したという。[鏡]	□1183 寿永2
		7 平家、都落ち。義仲入京。
		⑩ 頼朝に東国行政権が認められる。

図3 12世紀略年表（抜粋）（柳原他 2006）

第50図 遺構概略図 (縮尺任意) ■:トレンチ
赤線枠:地層重合による会津新宮城跡範囲



図4 会津新宮城跡遺構概略図 (山中他 2008)

史料九 (上段より) 塔寺八幡宮長帳裏書 応永二十二年十一月二十一日条 同十一月廿一日、新宮城押寄取巻也、夜半計之事也、 史料一〇 会津旧事雜考 卷四 十一月条抄 十一月廿一日夜半、黒川兵團、新宮城、攻焉、後相窺、毎歳、新宮記高館城有、 十二月新宮戦也、	(参考) 異本塔寺長帳 応永二十二年十一月二十一日条抄 新宮兵部太輔時康入道正宗、十一月廿一日自越後帰、新宮城、仍舊名盛政攻戦、十二月三日ノ合戦、双方先退陣、 解説 応永二十二年(一四一五)十一月二十一日の夜半、幕名(薩名)氏が新宮氏を攻め、これより毎年戦った。異本長帳は、新宮兵部太輔時康入道正宗が越後から帰って、新宮城に籠っていたので、薩名盛政が攻めたこととして、次号には十一月に新宮合戦のため、薩名氏が折衝を命じていたことがみえる。 史料一一 塔寺八幡宮長帳裏書 応永二十二年十一月条 応永廿二年十一月新宮陣巻敵配帳役者□ 正半分堂方分 仁王講分 宮方分 二月份 堂方分 一番式部阿闍梨 一番浄衆 三番祐賢御房 (下段に続く)	史料一二 (中段より) 塔寺八幡宮長帳裏書 応永二十五年正月条 応永廿五年正月新宮陣音信時山内 四番之、大乗経分奥房丸、初百内分河内阿巻数幸之、 同月十九日 五番三小房丸幸之、六番小沢二百内分、 堂方さからい、所ノ病死ノ時、八番河内陣巻数上之、三百内分 七番四月分浄衆 史料一三 塔寺八幡宮長帳裏書 応永二十六年六月二十九日条 新宮方 開白 其時夢物語大水まして此城流見、 応永廿六年六月廿九日夜、小河城黒河方打死ノらひ、 に而落ぬ、同年おふせの城七月廿八日、新宮方にハ夜半はかりにて落ぬ、 史料一四 改定史籍集覽所収塔寺八幡宮長帳裏書 応永二十七年七月一日条抄 応永二十七年庚子七月二日酉刻計也、新宮城没落畢、 史料一五 塔寺八幡宮長帳裏書 応永二十七年七月条 応永廿七年七月 九番堂方、五月份、新宮陣巻数、大藏公 越越ノ秀永動之、十一月分、 十番官方、了観坊、石見公苗代陣巻数幸□、 (前頁上段へ続く)
---	---	--

図5 会津新宮城跡関連史料(山中他 2008)

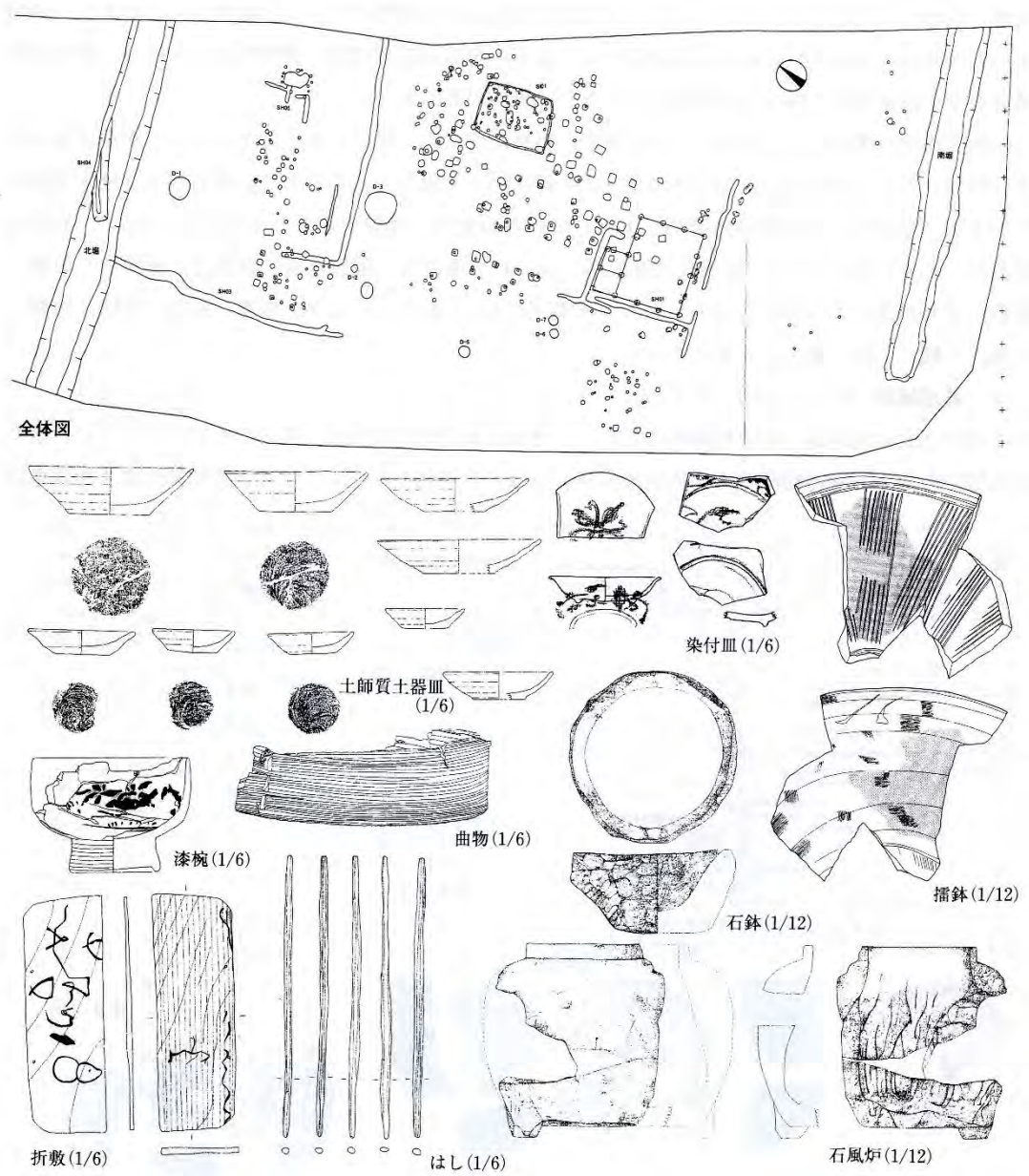


図6 元屋敷遺跡の遺構と遺物（西山 1994）



図7 元屋敷遺跡出土笏谷石製風炉（飯村他 2020）



図 8 向羽黒山城跡地形図（梶原 2003）



図9 柏木城跡遺構配置図(布尾他 2020)

引用文献

- 千田嘉博他 1993『城館調査ハンドブック』新人物往来社
- 吉田博行他 2005『陣が峯城跡 町内遺跡(陣が峯城跡)範囲内容確認調査報告書Ⅰ』福島県河沼郡会津坂下町教育委員会
- 柳原敏昭他 2006『文化財シンポジウム「十二世紀の奥羽越」報告書』福島県河沼郡会津坂下町教育委員会
- 島田祐悦他 2009『大鳥井山遺跡―第9次・第10次・第11次調査―』横手市教育委員会
- 八重樫忠郎 2015『シリーズ「遺跡を学ぶ」101 北のつわものの都 平泉』新泉社
- 山中雄志他 2008『会津新宮城跡発掘調査報告書』福島県喜多方市教育委員会
- 宮澤智士他 2013『文化財シンポジウム 大発見!!長床 解明された建築年代―』喜多方市教育委員会
- 小柴吉男他 1992『元屋敷遺跡《奥会津山ノ内一族中世の館Ⅱ》―ほ場整備事業に伴う発掘調査報告書―』福島県大沼郡三島町教育委員会
- 西山真理子 1994「南陸奥の焼物は何を語るか?―福島県における15・16世紀の城館出土の陶磁器から―」『福島考古』第35号福島県考古学会
- 菅原祥夫他 2007『会津縦貫北道路遺跡発掘調査報告7 高堂太遺跡(2次)』福島県教育委員会・(財)福島県文化振興事業団・国土交通省東北地方整備局郡山国道事務所
- 飯村均他 2020「陸奥南部の笏谷石製品」『全国笏谷石研究会資料集』
- 飯村均 2022「奥会津の中世居館が語るもの―福島県三島町元屋敷遺跡の再検討―」『高山流水―赤澤徳明氏退職記念論集―』赤澤徳明氏退職記念論集制作委員会
- 梶原圭介 2003～2007『向羽黒山城跡Ⅰ～Ⅴ』福島県大沼郡会津美里町(会津本郷町)教育委員会
- 梶原圭介 2011『史跡向羽黒山城跡整備計画書』福島県大沼郡会津美里町教育委員会
- 梶原圭介 2016『史跡向羽黒山城跡第1期調査整備事業報告書』福島県大沼郡会津美里町教育委員会
- 布尾和史 2020『柏木城跡』北塩原村教育委員会
- 北塩原教育委員会 2022『北塩原村の歴史・文化・自然 第3集 国指定史跡 柏木城跡』
- 飯村均 2009『中世奥羽のムラとマチ 考古学が描く列島史』東京大学出版会
- 飯村均 2015『中世奥羽の考古学』高志書院
- 飯村均他 2017『東北の名城を歩く 南東北編』吉川弘文館
- 飯村均他 2021『続・東北の名城を歩く 南東北編』吉川弘文館